

1. 事前の状況

学 級	抽出児童
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習に対して前向きに取り組むことができる児童が多いが、発言する児童が偏っている。 ・「道徳の授業で、これまでの自分のことを思い出して考えている」や「道徳の授業で学習したことについて、もっと深く考えてみたいと思う」という質問に対する肯定的な回答は3割にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業は大切だと感じているが、これまでの自分の生活を振り返って考えたり、自分の考えを広げ深めたりすることへの意識はもてていない。 ・自分の考えや学習の仕方に自信がもてず、成長しているという実感や学習の達成感が得にくい。

2. 評価とフィードバックに対する指導者の考えや気づき

- ・指導者の価値の押しつけにならないように注意し、児童の成長を促すように認める言葉を用いたフィードバックを行う。
- ・授業の後に、学習したこと改めて振り返る活動に取り組んでいる。その際、評価の視点を踏まえて、児童一人ひとりの学びを学級全体で共有し、児童の成長の実感や意欲につなげたい。

3. 評価とフィードバックの充実に向けてのおもな手立て

- ・児童一人ひとりの成長の実感や意欲を引き出すために、児童の実態を把握したことを基に、個に応じた言葉がけや問い返しを行う。
- ・評価の視点を明確にもち、評価する効果的な場面や方法を工夫することで、児童の学びの姿を適切に捉える。

4. 本時の様子

(1) 本時のねらいと展開

- 主題名 相手のことを考えた親切 【内容項目 B 親切、思いやり】
- 教材名 「心と心のあくしゅ」(「小学道徳 生きる力 4」 日本文教出版)
- 本時のねらい(下線部は目指す生徒の学びの姿)



坂道を上るおばあさんを見守るはやとの心情について考えることを通して、親切にするときには、相手にとっての親切について考えることが大切であるという理解を深め、相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行おうとする態度を育てる。

●本時における評価とフィードバックの工夫

- ・本時の展開では、児童の記述や発言から、「自分ならどのように行動するか」について考えながら道徳的価値の理解をさらに深めている姿を評価し、認める言葉がけを用いてフィードバックを行う。
- ・話し合う活動において、他者の意見に対してうなずいたり、納得したりしている様子を捉え、積極的に言葉がけをしたり、意図的に指名して学級全体に広げたりし、児童一人ひとりの道徳的価値の理解がより深まることをねらう。
- ・児童の振り返りの記述については、自分なりの課題を見つけたり、これから自分の生活や生き方に生かしたりしようとしていることを評価し、下線を引くことでフィードバックを行い、事後指導で学びを共有する。

(2) 評価とフィードバックの実際

	学習活動・主な発問	評価・フィードバック ※()内は評価を行う対象
導入	1. 事前アンケートの結果を基に、主題について話し合う。 ○親切にしてもらったり、親切な行動をしたりしたことはあるか。	
展開	2. 教材「心と心のあくしゅ」を読んで考える。 ○おばあさんに声をかけて断られたとき、はやとはどんな気持ちだったのだろうか。 ○お母さんから話を聞いたとき、はやとはどんなことを考えたのだろうか。 ◎はやとさんは、どんなことを考えながらおばあさんを見ていたのだろうか。(中心発問) ○「心と心のあくしゅ」ができたような気がしたとは、どういうことだろうか。	評価の視点⑥(記述・発言) ☞言葉がけ、意図的指名  全体交流の場面
終末	3. 本時の学習を振り返る。 ○これから親切にするときに大切にしたいことについて考えよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もくもくまわっている人がいたら、その人を助けたりすることが親せいな人が聞いてあげてくれることをする。相手の学びになるようなことをする。</p> </div> 抽出児童の振り返り	評価の視点：自己を振り返り、自分なりの課題を見つけたり、これからの自分の生活や生き方に生かしたりしようとしているか。(記述・発言) ☞言葉がけ、下線の記入
事後	1週間後に、学習したことについて改めて振り返る。	

(3) 本時に向けた授業構想および実践から学んだこと・気付いたこと

- ・評価やフィードバックに重点を置いて授業を構想したことで、個に応じた方法で児童の学びの姿を見取ることを意識するようになった。また、児童一人ひとりの成長を捉えるためには、普段の様子やアンケート等から児童の実態を適切に把握しておく必要があることが分かった。
- ・授業中の発言や記述からは、学習状況を十分に把握できないと判断した児童がいた。その児童に対して、個別に聞き取りを行ったところ、相手にとっての親切について、「まず声をかけて、本当に困っているのか聞いてみる」「その人のためにならなかつたら親切ではない」「その人が断っても、次に困っている人を見つけたら、また声をかける」等、道徳的価値に対する理解を自分なりに深めていることが分かった。



5. 児童の変容

学 級	抽出児童
<ul style="list-style-type: none">・「道徳の授業を通して、自分の成長を感じることがある」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が、31%から77%に増えた。・学習に対して消極的であった児童が、学習内容に興味・関心をもって授業に取り組むようになってきた。	<ul style="list-style-type: none">・道徳の授業で自分は成長したと思うことについて、自分の考えをワークシートに記述できるようになったことを挙げ、学習の中で自分の成長を実感するようになった。・学習したことについて、「もっと学びたい」と感じており、学習への意欲の高まりがうかがえる。



6. 本研究を振り返って(成果と課題)

- ・評価の視点を踏まえて、学習指導過程や指導方法を構想することで、本時で目指す児童の学びの姿をより明確にして授業を実践することができた。また、めあて(学習課題)に応じた学習のまとめ、振り返りを行うことができた。指導の意図を明確にもつことで、一貫性のある授業を実践することができることが分かった。
- ・指導者が、授業の中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することが十分でないときは、児童に個別に聞き取りを行い、評価やフィードバックにつなげることができることが分かった。指導者が、児童のよい点や成長に気付く機会を積極的に設けることが大切である。

道徳科の授業を実践される先生方へのメッセージ

道徳科の授業で、児童に何をどのように考えるとよいのか、児童のどのような姿を見取り、評価すればよいのかなど、たくさん悩みながら実践してきました。そして、実践から得たことを教員同士で共有し、相談したり話し合ったりして、よりよい道徳科の授業を目指してきました。お互いの実践からよい方法を学んだり、自身の実践に取り入れたりしながら、児童と共によりよい道徳科の授業を創っていくことが大切だと思いました。

